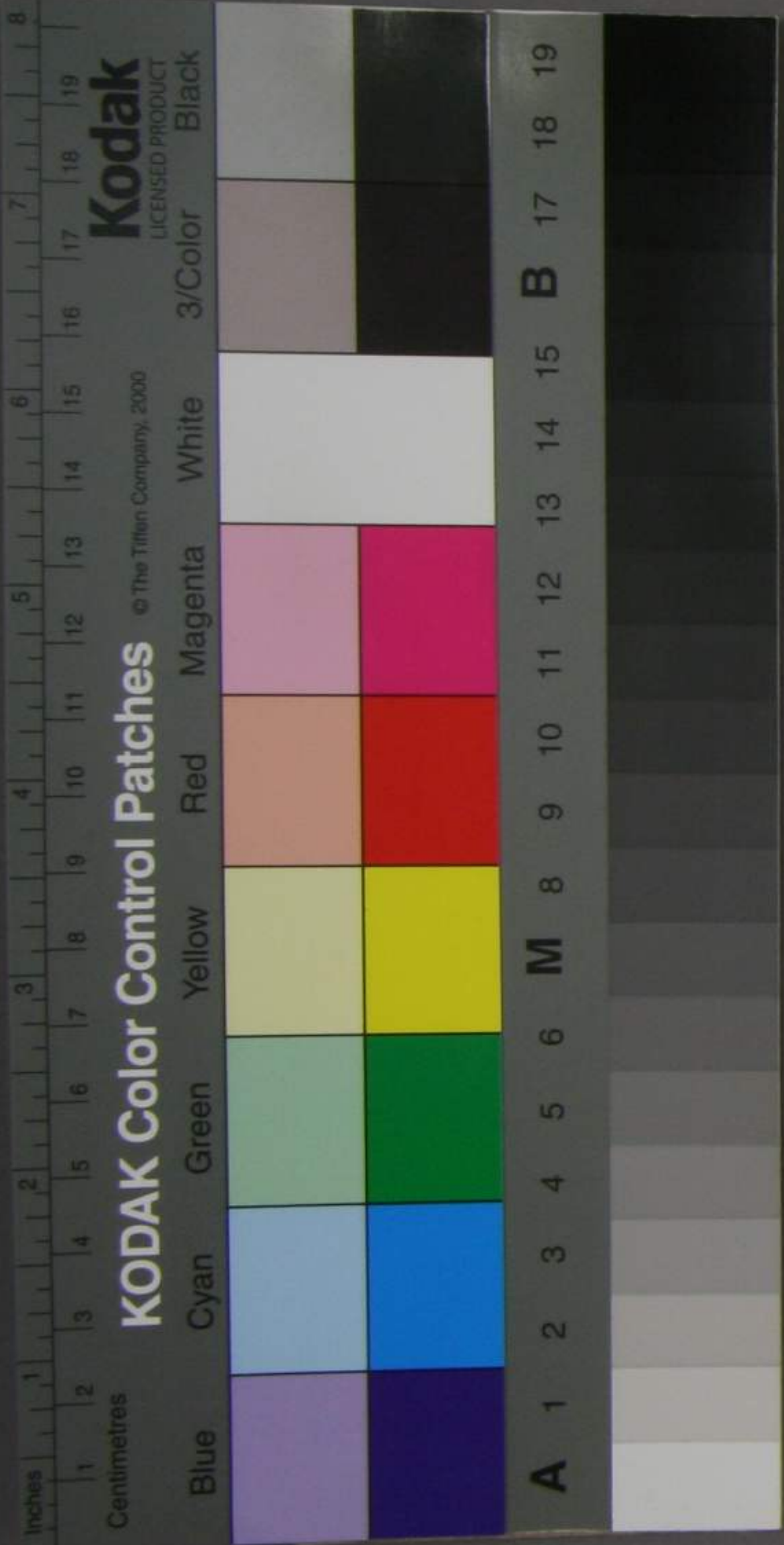


114
A 1951



建白書

謹啓内閣總理大臣伯爵大隈重信公閣下 大藏大臣松田
 正久公閣下ニ白ス兩閣下夙ニ至誠忠厚ノ資ヲ以テ邦家ノ為
 ノ盡瘁セラレコトヨク多ク一日ノ如シ是萬象ノ深ク感佩シ止マサル所
 ナリ我帝國ハ閣下等盡瘁偉大ノ功績ニ依リ國運長足ノ進
 歩ニ伴ヒ愈々盛ニシテ紀綱益々張レリ隨テ歳費増加スルハ救免
 カレサル如ク惟フニ帝國ノ財政今ヤ頻々繁クナラントス而モ財政富裕
 ナラザレバ各般ノ政務沮滯シ國運消長ニ関スル論ヲ俟タズ不肖
 等盲蛇ノ卑見ヲ以テ至高ニ閣下ニ建白ス茲ニ別紙參考書
 ノ通土地及税ナルヲ設定相成目下帝國急務ナル財原ニ採
 用セラレトテ懇望ノ至ニ不堪候土地及税ハ或ハ重複税ニ涉
 ルノ憂ナキニモアラスモ市街宅地租増税又ハ地價修正増徴スルヨリ



モ尚一層易シ單ニ地租増徴セシカ地價ノ最高ナル地ハ均衡ヲ
得ス最低ナル地ハ噴噴ヲ得テ大ニ民論合同セテ地價修正シ地租
増徴モ又困難ニシテ容易ノ業ニテラス目下急務ヲ救フ不能ス
二者一ヲ取ルニ足ラス市街宅地租増徴ハ市街地ノ發達ヲ沮害
シ多救借家貧民ノ窮乏ヲ一層急ニ高ムモノニシテ其金額ハ
少救ニテ好望ノ財原ニモ無之ト存候然レ共土地ニ依リテ財原ヲ求
ムルヲ堅キナシ依テ本税設定セラルニ於テハ徵稅上簡易ニシテ
吏負ヲ増サズ經費ヲ増サズ現今其低ニ土地台帳ヲ利用シ只
條例發付ノミニテ其日ニ於テモ徵稅スラ得就テハ別紙參考書
第一條ニ依リ及税金參拾錢トシ全國ノ及別凡六百萬町歩
ト暇定スルトキハ其金額壹千八百萬圓以上ヲ國庫ニ收入スラ
得ルモノニシテ急ヲ救フ財原ニ足ルモノト被存候及稅條例設定

相成ルハ地價ノ最高ナル土地ト最低ナル土地トノ均等ヲ得ル次第
ニ有之如何トナレハ現今地價ノ均等ヲ得サル土地ト虽多ハ地價ノ
上位ナルモノハ地味肥沃ニシテ用水及乾水ノ便共ニ具シリ地價且取
低ナル土地ハ概テ粗悪ニシテ用水及乾水ノ便ヲ欠キ加フルニ旱害水害
ノ憂アリ依テ收穫比皆無ナルハ免稅トシ收穫スルハ高低ノ差
別ナラ平等ニ及稅ヲ徵收スルモノナレハ一方ハ平等差アル地價ニ依リ地
租ヲ納メテ一方ニ及稅ヲ以テ徵收スルハ兩者相俟テ平均ヲ
得ルモノト存候尚不肖等ノ卑見席採用ノ上ハ明治二十年
勅令第五號所得稅法同稅法施行細則中土地ニ關スル所
得ニ限リ免除スル義ニ即修正相成度然ルハ所得稅ニ交フル
及稅ナレハ全國民敢テ異議スルモノ無之ト被存候又目下帝
國ノ財政困難ヲ他視セシヤ國民ノ義務邦家ノ為メ甘シ

ヲ納税セズンハアルカラス希ハ他ノ細少ナル賦原ヲ止メ及稅條例
設立相成益々國運ノ隆盛ヲ基圖シ帝國民ノ福利ヲ
増進シ給ヒシコトヲ不肖等仰テ優渥至仁ナル

天恩ヲ永遠ニ感劬奉戴シ又至誠忠存タル所閣下ノ恩
惠ヲ以テ微意ヲ採納アラシテ誠惶頓首謹白

岐阜縣稻葉郡加納町本加納三番戸平民

明治三十五年十月廿五日

水崎林太郎

岐阜縣稻葉郡加納町大字東加納四町目廿六番戸平民

宮部玉二郎

明治三十五年十月廿五日

内閣總理大臣伯爵大隈重信殿
大藏大臣 松田正久殿

参考書

土地及稅條例

第一條 土地及稅ハ高及歩メ付キ金參拾錢ヲ以テ高々年ノ定高トス

但シ北海道ハ當分本稅ヲ徵收セズ

第二條 及稅ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セズ

但天災ニ依リ其地ノ收穫皆無ナルハ其年ノ及稅ヲ免ス

第三條 及稅ヲ徵收スル地目ハ左ノ七種トス

田 畑 郡村宅地 市街宅地 塩田 鑛泉地 鐵道用地

第四條 前條ニ掲ケサル地目ハ及稅ヲ徵收セズ

第五條 及稅ハ土地台帳記名者ヨリ徵收ス但賃入土地ハ其賃

取主ニ於テ之ヲ納ムル

第六條 他ノ地目ヨリ第三條ニ掲名地目ニ變換又ハ他ノ地目ニ變

換スルハ月割ヲ以テ徵收又ハ免稅ス

第七條特別ノ屬分ヲ受ケ免租年期中ト星其地ノ收獲旧
復スルハ及税ヲ徴収ス

第八條及別ヲ欺隱シ及税ヲ補脱スルハ地租條例第廿
五條第廿七條第廿八條第廿九條ヲ適用ス

附則

第九條本條例發付ノ年ヲ施行ス

備考

- 一 尖楚ニ付キ深ク調査スルニテラス候ニ付キ賢明ナル時審査ヲ以テ徴収期日徴収区等即令全額又ハ五分ノ時決定ハ取致
- 一 右種ノ地目ニ依リ時審査ノ上別々金額ヲ算差ヲ設クルニモ良第ト存
- 一 穀道用ハ入居入セシハ故モ一種ノ管業用也即令一般ノ民ノ屋敷又ハ田畑ノ同視セシテ但シ是ナリ
- 一 本考考書ハ只目的ヲ定メタルモノニテ良法トハハ更ニ法文時改定相取局
- 一 本税穀定ハ重復税ノ虞アリト最所得税地所ニ關スル分省々様新得稅法時修正ノ時ハ八十萬圓以内ノ減收ナレモ所得稅ニ登レ及税ト云フ考ナリ